

1. 泥炭 2. まさ土 3. シラス 4. 関東ローム

1. 仏教 2. キリスト教 3. イスラム教 4. ヒンドゥー教

1. ヨーロッパ諸国では、石炭や石油などの地下資源が完全に枯渇しており、自国でエネルギーをまかなう手段がないため。	2. ヨーロッパ諸国では、持続可能な社会の実現に向けて、環境負荷の低いエネルギーへの転換を政策的に進めているため。	3. 日本はヨーロッパ諸国に比べて電力需要が極めて少なく、新しいエネルギー源を開発する必要性が低いため。	4. 日本は四方を海に囲まれているため、風力や太陽光などの自然エネルギーを利用した発電に適していないため。
---	---	--	---

1. 富国強兵 2. 文明開化 3. 殖産興業 4. 自由民権運動

1. 千葉県は内陸部における電気機械の生産が産業の柱であり、埼玉県は荒川沿いの水資源を利用した大規模な製鉄所の集積によって鉄鋼業が成長したから。	2. 千葉県は京浜工業地帯の一部として自動車などの輸送用機械の輸出拠点となり、埼玉県は県内の油田から採掘された資源をもとに石油・化学工業を成長させたから。	3. 千葉県は京葉工業地域の沿岸部に位置し、海外からの原料輸入に適した石油・化学コンビナートが形成された、埼玉県は交通網の発達した内陸で加工組立型工業が発達したから。	4. 千葉県は利根川沿いの肥沃な土地を活かした食料品工業を主軸とし、埼玉県は秩父山地の鉱物資源を背景とした鉄鋼業を主軸として発展してきたから。
--	---	---	---

1. 激増していた外地からの引揚者に
対し、地主が所有する未開拓の山林
を優先的に分配して食糧増産を図る
ため。
2. 貧しい小作農が多かった農村の構
造を改めて生活を安定させ、共産主
義勢力の拡大を防ぐとともに民主化
を定着させるため。
3. 欧米諸国のような大規模機械化農
業を導入するために、土地の所有権
を国に一本化して管理する必要があ
ったため。
4. 地主層に集中していた資金を、政
府が財閥解体後の新興企業への投資
に回すよう強制するため。

1. メディアから発信される情報は常に中立であるため、そのまま受け入れることが大切である。	2. インターネット上には誤った情報が含まれる可能性があるため、情報を批判的に読み取って判断する必要がある。	3. 情報の真偽を確認するには時間がかかるため、まずは情報の拡散を優先させることが重要である。	4. 公的な機関や大手の新聞社が発信する情報であれば、多角的な検証を行う必要はない。
---	--	---	--

1. 長崎県に建設され、日露戦争の講和条約で獲得した賠償金をもとに建設された。	2. 福岡県に建設され、日清戦争で清から得た賠償金が建設費用の一部に充てられた。	3. 静岡県に建設され、富岡製糸場の払い下げで得た利益を資金源として設立された。	4. 岩手県に建設され、地租改正によって得られた安定した税収をもとに政府が設立した。
---	--	--	--

1. 広大な土地に大型機械を導入し、春に種をまく春小麦の栽培を主に行っている。

2. 一年中平均して降る雨を利用し、酪農と食料作物の栽培を組み合わせている。

3. 乾燥に強い樹木作物と、冬の降水を利用した冬小麦の栽培を組み合わせている。

4. 季節風による夏季の多雨を利用し、二期作による稲作を大規模に行っている。

1. 西洋の思想や生活様式を普及させて社会を近代化するため、学制の発布や太陽暦の採用を行った。	2. 欧米の近代産業を導入して資本主義を育成するため、官営模範工場の設立や交通網の整備を行った。	3. 国家の財政を安定させるため、土地の所有者に地券を交付して地価の3%を現金で徴収した。	4. 軍隊を強化して国の独立を守るため、徴兵令を施行して国民に兵役の義務を課した。
---	--	---	---

1. 輸入に頼っている原油や小麦などの輸入価格が上昇し、国内の物価を押し上げる要因となる	2. 日本を訪れる外国人観光客にとって日本での滞在費が割高に感じられ、観光需要が減少する	3. 円の価値が高まるため、海外投資を行っている投資家が日本円に資産を戻しやすくなる	4. 海外製品が安く手に入るようになるため、国内の消費者の購買意欲が高まる
--	--	--	---------------------------------------

1. 日蓮宗 2. 時宗 3. 禪宗 4. 淨土宗

答え合わせ・解説

問1	答え 4 関東ローム	関東地方の台地で見られる赤色の土層は「関東ローム」と呼ばれます。これは数十万年前から続く火山活動（主に富士山や箱根山）によって噴出された火山灰が、偏西風に乗って運ばれ、地表に堆積して形成されたものです。九州南部の火山灰台地を作る「シラス」や、中国地方などで見られる花こう岩が風化した「まさ土」と区別して覚える必要があります。
問2	答え 3 イスラム教	北アフリカや西アジアの乾燥地帯では、7世紀にアラビア半島で誕生したイスラム教が広く普及しています。信者は唯一神であるアッラーを崇拜し、日常生活の規範ともなる聖典『コーラン』に従って生活しています。
問3	答え 2 ヨーロッパ諸国では、持続可能な社会の実現に向けて、環境負荷の低いエネルギーへの転換を政策的に進めているため。	エネルギー供給の割合の違いは、各国の環境政策の差を反映しています。ドイツをはじめとするヨーロッパ諸国では、地球温暖化対策として「脱炭素」を掲げ、化石燃料から風力や太陽光などの再生可能エネルギーへと供給源を切り替えるエネルギー転換（エネルギー・ヴェンデ）を積極的に進めてきました。これに対し、日本は資源の多くを海外からの輸入に頼っており、安定した電力供給を維持するために、依然として火力発電の燃料となる化石燃料への依存度が高いという課題を抱えています。
問4	答え 2 文明開化	明治政府の近代化政策に伴い、欧米の文化や制度が急速に導入された現象を指します。食生活でのザンギリ頭や牛鍋の流行、建築での煉瓦造りの導入など、人々の生活スタイルが伝統的なものから西洋的なものへと大きく変化しました。
問5	答え 3 千葉県は京葉工業地域の沿岸部に位置し、海外からの原料輸入に適した石油・化学コンビナートが形成され、埼玉県は交通網の発達した内陸で加工組立型工業が発展したから。	工業の特色は、その地域の地理的条件に強く影響を受けます。千葉県は東京湾の埋立地を利用して巨大な石油・化学コンビナートが建設されたため、基礎素材を生産する重化学工業が強みとなっています。一方、埼玉県は内陸に位置しますが、首都圏の巨大な消費地に近く、高速道路などの交通網が整備されているため、自動車などの輸送用機械を中心とした加工組立型の工業が発展しました。
問6	答え 2 貧しい小作農が多かった農村の構造を改めて生活を安定させ、共産主義勢力の拡大を防ぐとともに民主化を定着させるため。	農地改革には、人権の尊重や民主化の促進という目的のほかに、政治的な安定を図る狙いもありました。生活の苦しい小作農が地主に対して不満を持つ不安定な社会状況は、当時急速に広まっていた共産主義の影響を受けやすいと考えられていました。農民に自分の土地を持たせて生活を安定させることは、農村を保守的で安定した層に変え、過激な思想の浸透を防ぐという側面も持っていました。
問7	答え 2 インターネット上には誤った情報が含まれる可能性があるため、情報を批判的に読み取って判断する必要がある。	情報の発信者が多岐にわたる現代では、意図的な偏りや誤りを含む情報が流通することもあります。そのため、一つの情報をうのみにせず、複数の資料と照らし合わせたり、客観的な事実に基づいているかを確認したりする姿勢が求められます。
問8	答え 2 福岡県に建設され、日清戦争で清から得た賠償金が建設費用の一部に充てられた。	明治時代、日本は日清戦争の勝利によって清から多額の賠償金を獲得しました。政府はこの賠償金などを活用して、軍備の拡張や産業の育成を推進し、その一環として福岡県に日本初の本格的な官営製鉄所である八幡製鉄所を建設しました。建設地として福岡県が選ばれたのは、原料となる石炭を産出する筑豊炭田が近く、中国大陆からの鉄鉱石の輸送にも適していたためです。
問9	答え 3 乾燥に強い樹木作物と、冬の降水を利用した冬小麦の栽培を組み合わせている。	地中海性気候下の農業は、夏季の乾燥に耐えられるオリーブやぶどうなどの樹木作物と、比較的雨の多い冬季に成長させる小麦の栽培を組み合わせることが一般的です。酪農を中心とするのは西岸海洋性気候で見られる混合農業の特徴であり、季節風を利用するのはアジアなどの温帯湿潤気候や熱帯モンスーン気候の特徴です。
問10	答え 2 欧米の近代産業を導入して資本主義を育成するため、官営模範工場の設立や交通網の整備を行った。	明治政府は、日本の独立を維持するためには経済力の向上が不可欠であると考え、政府主導で近代的な産業を育てる方針を打ち出しました。これが殖産興業です。具体的には、群馬県の富岡製糸場に代表される官営模範工場で西洋の技術を民間に伝えたり、福島県の安積（あさか）開拓のような事業で土地を開発したりすることで、民間の産業が発展する土台を築きました。
問11	答え 1 輸入に頼っている原油や小麦などの輸入価格が上昇し、国内の物価を押し上げる要因となる	円安になると、同じ1ドルの商品を輸入する際により多くの円を支払う必要が生じます。日本はエネルギー資源や食料の原材料を海外に大きく依存しているため、円安が進行すると輸入コストが増大し、電気料金や食料品などの身近な物価の上昇（インフレ）を招く原因となります。
問12	答え 3 禅宗	鎌倉時代に成立した新仏教の中でも、座禅による修行を重視する教えは禅宗と呼ばれます。栄西によって伝えられた臨済宗や、道元によって伝えられた曹洞宗がその代表です。これらは「自力」の教えを強調しており、他者の救済を怠る浄土信仰などとは対照的な性格を持っていました。